

【若者へのメッセージ】技術者資格取得の“ススメ”



内村 好
論説委員
(株)建設技術研究所
特別顧問

なぜ資格を取るのか

皆さんは「技術士」や「土木施工管理技士」などの資格取得を目指していますか？技術者として、なぜ資格が必要なのでしょうか。

設計や工事を発注する国や地方自治体（発注者）は、高い専門性のもとで責任を持って仕事をしてくれる技術者を抱える会社と契約し、質の高い成果を得る責任を負っています。一方、建設コンサルタントや建設会社など（受注者）にとっては、仕事を受注するには発注者の要求を満たす質の高い技術者を配置することが必要です。このため第三者によって証明された技術者資格を活用することが必然的に発注者、受注者共に求められます。

また、土木は公共性の高い仕事であり、自然環境や社会経済に与えるインパクトが大きく、国民の視点からも高い専門性と倫理観に裏打ちされた技術者資格が求められています。そのことは医師や弁護士などの国家資格の例を引くとよくわかります。誰も資格を持たない者に安心して病気の治療や裁判を任せるはずがありません。

さらに、現代のビジネスは広く世界に広がっており、グローバルに活躍するには、技術者の資質の国際的な同等性を担保した資格制度が必要となっています。

資格の取得は技術者個人にとっては、ビジネス上の必要性とともに給与や昇格のメリットもありますが、最も重要なことは自分のキャリアを確認し社会的評価を受けることであり、さらに日本技術士会や土木学会などが実施する継続的な研さん（CPD）によって専門技術力や倫理観のさらなる向上をはかることにあります。

どんな資格があるか

「技術士」や「土木施工管理技士」は国の認めた国家資格です。それぞれ責任ある立場（管理技術者や主任技術者など）として設計や工事に携わることとなります。このうち「技術士」は建設のみならず電気や機

械、情報など21の科学技術部門に及ぶ幅広い資格で、我が国で最も権威のある技術者資格の一つで、登録者数は約8万7千名です。またAPECエンジニアなどの国際的技術者資格との同等性が担保されています。

土木学会の「土木技術者認定資格」、建設コンサルタツ協会の「RCCM」などの学協会が試験し認定する資格もあります。これらの技術者の基本となる資格のほかに、例えば「コンクリート診断士」（日本コンクリート工学会）のように専門性に特化した資格も多数あります。

資格取得には、基本的には数年間の実務経験などにより受験資格を得て、筆記試験や資格によっては面接や実技試験を受けて合格し、資格認定団体に登録することが必要です。職業やキャリアに応じて、まず基本となる資格取得を目指し、その後に専門分野で活かせる資格を取得することが良いでしょう。

プロフェッショナルとしての資格

責任ある立場でさまざまな課題に対峙する場合には「専門分野と総合的な知見に基づく科学的客観的な判断」「リーダーシップやコミュニケーション力」「高い倫理観に基づく中立公正な立場」が求められます。これらを兼ね備えた技術者像を表す適切な日本語が見つかりませんが、欧米では“Professional Engineer”と呼ばれ社会に高く評価されています。それらの必要要件を満たし社会的に認知してくれるものがプロフェッショナルとしての技術者資格であるといえます。無論、技術者資格の取得は一つの通過点であり、資格取得後の研さんと実務経験の蓄積が求められることは言うまでもありません。現代社会は高度化・複雑化、グローバル化しており、課題解決には会社などの組織で取り組まねばなりません。しかしながら組織には機動力や効率性などがある反面、企業による不祥事隠しのよう匿名性や責任の不明確性などの「組織の論理」の危険性を内在しています。今、まさに組織とプロフェッショナルとしての個人の新しい関係が求められています。

医師ならば「医師の〇〇です。〇〇病院に勤めています」と言えるでしょう。あなたも「〇〇会社に勤める〇〇です」でなく、「技術士の〇〇です。〇〇会社に勤めています」と言えることを目指しませんか？